

離婚後の親子の交流について考える
kネット代表理事

植野 ^{ふみ} 史 さん 51

たま ^人
tamabito



会えぬ長男 今も胸に

ある日、元夫の家に遊びに行
った長男を迎えに行くと、ドア
に「二度とこの家に近づくな」
と張り紙がしてあった。その日
から、長男と暮らすことができ
なくなった。13年ほど前のこと
だ。誕生日になると、小さかつ
た頃の姿を思い出し、胸が締め
付けられる。その後は元夫の立
ち会いで一度会ったきり。長男

は今、18歳になった。
同じようなつらい思いをして
いる人たちのためになりたい
と、2009年に「共同親権運
動ネットワーク」(kネット)
を結成し、双方の親が子ども
の養育にかかわっていける法律の
制定を求め、社会に訴え続け
ている。

市民運動を通じて知り合っ

◆ 和歌山県出身。自宅がある国立市には、戦争や原子力発
電といったテーマについて自由に話せる雰囲気があり、問
題意識を共有できる人たちもいるのが魅力という。共同親権運
動に関する問い合わせはkネット(☎03・5909・7753)へ。

た、ライター
の宗像充さん(35)
との会話が活動
するきっかけと
なった。「子どもと会えなくな
る」と暗い顔をしていた宗像さ
んに、「私は10年も会っていない
い」と打ち明けた。数か月後の
2008年2月、宗像さんから
離婚後の親子の交流の法制化な
どを求める陳情書を出そうと誘
われた。

和歌山県で中学の音楽教師を
していた時に妊娠し、岐阜県に
住んでいた男性と結婚した。子
どもは流産、早産の危機をくぐ
りぬけて生まれてきた。元夫と
は次第にけんかが絶えなくな
り、4歳の長男を連れて家を出
た。元夫が長男と面会すること
は承諾したところ、突然の仕打
ちを受けた。

子どもと会えなくなるのは、
自分の人生が終わったも同然。
仕事もろくにできず、精神的に
ボロボロになってしまった。元
夫に対し、子どもを戻すように
と命じる審判が出されたもの
の、実行されなかった。親権が

取れるよう、裁判も起したが、
子どもを巡って争うのが嫌にな
り、取り下げた。1998年6
月、離婚が成立した。

離婚直前、知人に「子どもの
ためではなく、自分自身を生き
なさい」とアドバイスされ、少
し気が楽になった。やりたいこ
とをしようと思ひ、アルバイト
をしていた劇団の俳優が東京の
劇場に出演することになり、国
立市に住む友人を頼って東京へ
遊びに行った。

友人が紹介してくれた居酒屋
に行くと、集まってくる人がと
ても面白く、居心地が良かった。
次第に国立市に来る頻度が増
え、1999年8月、引っ越し
た。

「自分のために生きる」と思
っても、飾ってある長男の写
真を見ると、気持ち沈むことも。
宗像さんから誘いを受けた時、
「子どもに対して何もしてあげ
られなかったけど、子どもに会
うための運動ならできるかもし
れない」との思いが、運動の背
景にある。

(バッテリー・アイシャ)